

平成 20 年度廃棄物処理等科学研究費補助金

循環型社会形成推進研究推進事業報告書

(概要版)

平成 21 年 3 月

財団法人 廃棄物研究財団

— 目 次 —

1. 平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会の開催.....	1
2. 平成 20 年度の「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の公募に係る広報事業.....	6
3. 第 4 回アジア太平洋廃棄物専門家会議の開催.....	9
4. 研究者の海外派遣・国内招聘.....	15

事業の概要

本事業は、次の4項目に大別される。

事業①：前年度に行われた「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の有意義な成果を効果的に普及させる事業

◆ 平成20年度循環型社会形成推進研究発表会の開催……………⇒ 1. に詳細を記載

事業②：平成21年度の「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の公募に係る広報事業 ⇒ 2. に詳細を記載

事業③：3R イニシアティブ特別枠に係る研究事業を支援するため、アジア地域の廃棄物管理・3R分野の専門家によるネットワークに向けて、適正な国際資源循環及び廃棄物適正管理システムの構築に関して検討する国際的な会議について、環境省が提示する関係組織と協力して企画・運営・開催する事業

◆ 第4回アジア太平洋廃棄物専門家会議の開催……………⇒ 3. に詳細を記載

事業④：その他研究事業を支援するための外国人研究者の招へい及び日本人研究者の海外派遣の事業

◆ 研究者の海外派遣・国内招聘……………⇒ 4. に詳細を記載

1. 平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会の開催

(1) 概要

循環型社会形成推進研究推進事業の交付を受け、平成 19 年度に実施された研究成果を幅広く一般に公開し、多くの方が日本における最先端の研究テーマに関する情報を得て、さらなる廃棄物処理に係わる研究や技術開発推進に資することを目的に、前年度に行われた「廃棄物処理対策研究事業」及び「次世代廃棄物処理技術基盤整備事業」の研究成果、及び施策や動向等に関するセミナーを下記の 4 会場で開催した。

①第 1 回 東京会場

開催日 平成 20 年 12 月 1 日 (月)

開催場所 都道府県会館 402 会議室
東京都千代田区平河町 2-6-3

主催 財団法人廃棄物研究財団 (以下、各会場共通)

参加費 無料 (以下、各会場共通)

②第 2 回 大阪会場

開催日 平成 20 年 12 月 12 日 (金)

開催場所 大阪新阪急ホテル 紫の間
大阪市北区芝田 1-1-35

③第 3 回 福岡会場

開催日 平成 20 年 12 月 19 日 (金)

開催場所 八重洲博多ビル ホール A
福岡市博多区博多駅東 2-18-30

④第 4 回 東京会場

開催日 平成 21 年 2 月 4 日 (水)

開催場所 霞ヶ関ビル 33F 東海大学校友会館 望星の間
東京都千代田区霞が関 3-2-5

(2) プログラム

第1回～第3回の3会場では、特別講演2件と、研究発表5～6件の口頭発表を行った。第4回の東京会場では、特別講演2件、次世代研究成果発表5件の発表を行った。

各会場のプログラムを表1-1～1-4に示す。

表 1-1 平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会（第 1 回：東京会場）のプログラム

(1)開会挨拶	12:30～12:35
(2)特別講演	
1.「廃棄物処理施策の動向について」 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	12:35～13:05
2.「空間スケールから見た循環型社会-地域循環から地球規模の物質循環まで-」 (独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター長 森口 祐一	13:05～14:00
(3)研究発表	
1.「再生製品に対する環境安全評価手法のシステム規格化に基づく安全品質レベルの合理的設定手法に関する研究」 (独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 循環技術システム研究室 室長 大迫 政浩	14:00～14:25
2.「産業拠点地区での地域循環ビジネスを中核とする都市再生施策の設計とその環境・経済評価システムの構築」 (独)国立環境研究所 アジア自然共生研究グループ 環境技術評価システム研究室 室長 藤田 壮 — — — — — 休憩(14:50～15:05) — — — — —	14:25～14:50
3.「廃棄物を利用した鉄-水素コプロダクションシステムに関する研究」 九州大学 工学研究院 材料工学部門 教授 清水 正賢	15:05～15:30
4.「廃棄物最終処分場における鋼管ケーシング削孔工法による多目的井戸システムの開発」 東急建設株式会社 土木総本部環境技術部 技術員 椿 雅俊	15:30～15:55
5.「コンクリート産業における環境負荷評価マテリアルフローシミュレーターの開発および最適化支援システムの構築に関する研究」 東京大学 大学院 工学系研究科 准教授 野口 貴文	15:55～16:20
(4)閉会挨拶	16:20～16:25

表 1-2 平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会（第 2 回：大阪会場）のプログラム

(1)開会挨拶	12:30～12:35
(2)特別講演	
1.「廃棄物処理施策の動向について」	12:35～13:05
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	
2.「バイオマス利活用による地球温暖化防止」	13:05～14:00
日本大学 大学院 総合科学研究科 環境科学専攻 教授 野池 達也	
(3)研究発表	
1.「近未来の循環型社会における技術システムビジョンと転換戦略に関する研究」	14:00～14:25
(独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 循環技術システム研究室 室長 大迫 政浩	
2.「廃棄物系バイオマスから粉炭燃料の製造可能性と有害物除去方法の研究」	14:25～14:50
東京農工大学 名誉教授 堀尾 正毅	
— — — — — 休憩(14:50～15:05) — — — — —	
3.「バイオマスの高機能化とめっき廃液の最適な資源循環システムの構築」	15:05～15:30
宮崎大学 工学部 物質環境化学科 教授 馬場 由成	
4.「バイオディーゼル燃料副産物から生分解性プラスチック原料製造装置の開発」	15:30～
15:55	
日立造船株式会社 事業・製品開発センター 主任技師 岸田 央範	
5.「生ごみ等廃棄物系バイオマスからの高品質エネルギーのカスケード利用技術開発」	15:55～16:20
東京ガス株式会社 基盤技術部 技術研究所 大坂 典子	
(4)閉会挨拶	16:20～16:25

表 1-3 平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会（第 3 回：福岡会場）のプログラム

(1)開会挨拶	12:30～12:35
(2)特別講演	
1.「廃棄物処理施策の動向について」	12:35～13:05
環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	
2.「アスベスト廃棄物の無害化処理に係わる分析について」	13:05～14:00
(独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 物質管理研究室 室長 野馬 幸生	
(3)研究発表	
1.「アスベストの判別・無害化処理システムの確立に関する研究」	14:00～14:25
大阪大学 大学院先端科学イノベーションセンター 客員教授 山崎 伸道	
2.「ダイオキシン類汚染底質の間接加熱処理に伴うダイオキシン類の除去挙動に関する研究」	14:25～14:50
東京農工大学 大学院 工学府 応用化学専攻 細見・中島田研究室 下田 公陽	
3.「循環廃棄過程を含めた水銀インベントリーと排出に関する研究」	14:50～14:50
(独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター	

<p>廃棄物試験評価研究室 室長 貴田 晶子</p> <p>— — — — — 休憩(15:15~15:30) — — — — —</p>	
4.「低濃度PCB汚染物の焼却処理に関する研究」	15:30~15:55
<p>(財)産業廃棄物処理事業振興財団 理事 泉澤 秀一</p>	
5.「アスベストの無害化処理技術の開発」	15:55~16:20
<p>新日鉄エンジニアリング株式会社 環境ソリューション事業部 計画技術部 マネジャー 真名子 一隆</p>	
6.「FRPの亜臨界水分解技術の実用化開発」	16:20~16:45
<p>パナソニック電気株式会社 新規商品創出技術開発部 副参事 真継 伸</p>	
(4)閉会挨拶	16:45~16:50

表 1-4 平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会（第 4 回：東京会場）のプログラム

(1)開会挨拶	10:30~10:35
(2)特別講演	
1.「廃棄物処理施策の動向について」	10:35~11:10
<p>環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課</p>	
2.「廃棄物処理技術の展望」	11:10~12:00
<p>福岡大学 客員教授 浦邊 真郎</p>	
(3)研究発表	
1.「アスベストの無害化処理技術の開発」	13:00~13:40
<p>新日鉄エンジニアリング株式会社 環境ソリューション事業部 部長 長田 守弘</p>	
2.「バイオディーゼルの燃料副産物から生分解性プラスチック原料製造装置の開発」	13:40~14:20
<p>日立造船株式会社 事業・製品開発センター 主任技師 岸田 央範</p>	
3.「FRPの亜臨界水分解技術の実用化開発」	14:20~15:00
<p>パナソニック電気株式会社 新規商品創出技術開発部 副参事 真継 伸</p>	
<p>— — — — — 休憩(15:00~15:15) — — — — —</p>	
4.「生ごみ等廃棄物系バイオマスからの高品質エネルギーのカスケード利用技術開発」	15:15~15:55
<p>東京ガス株式会社 基盤技術部 技術研究所 大坂 典子</p>	
5.「廃棄物最終処分場における鋼管ケーシング削孔工法による多目的井戸システムの開発」	15:55~16:35
<p>東急建設株式会社 土木総本部環境技術部 技術員 椿 雅俊</p>	
(4)閉会挨拶	16:35~16:40

(3) 予稿集

研究発表対象 16 件の研究成果報告書を「平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会 研究成果報告書」として取りまとめ、聴講者に配布した。なお、各会場での特別講演を含む講演資料を別刷り資料として、併せて配布した。

(4) 開催案内

セミナーの開催毎に、各開催地域の自治体、当財団会員、3R 推進フォーラム会員、廃棄物関連団体に開催案内を送付した。

また、(財) 廃棄物研究財団のホームページ及び廃棄物関連誌に開催案内を掲載した。

(5) 聴講者数

各会場での聴講者数を表 1-5 に示す。4 箇所の会場の聴講者を合計すると、合計 375 名が聴講した。聴講者の大半は企業であり、自治体関係者は約 2 割であった。

表 1-5 平成 20 年度循環型社会形成推進研究発表会の聴講者数

会場	発表数	聴講者数			
		自治体	企業 1)	その他 2)	計
第一回 東京会場	2+5	17	61	6	84
第二回 大阪会場	2+5	18	60	6	84
第三回 福岡会場	2+6	17	45	5	67
第四回 東京会場	2+5	38	83	19	140
合計	29	90	249	36	375

1)メーカー、コンサル、操業会社

2)研究機関、公益法人、大学等公的機関、新聞社、個人

(6) アンケート結果

アンケートにより、各会場で受講者から寄せられた主なコメントを以下に示す。今後のセミナー実施の参考としたい。

- ・今後も情報発信を継続して欲しい。
- ・会場毎のテーマ設定に対する要望（各会場同一テーマ希望、好不評テーマ等）
- ・資料の誤字等の指摘、
- ・パワーポイントの見やすさ、分かりやすい説明の希望等プレゼンターに対する要望

2. 平成 21 年度の「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の公募に係る広報事業

(1) 目的

平成 21 年度の「循環型社会形成推進研究事業」及び「次世代循環型社会形成推進技術基盤整備事業」の環境省補助金事業の公募にあたり、補助金の目的である、科学技術に関する研究を促進し廃棄物の安全かつ適正な処理、循環型社会の形成の推進等に関する行政施策の推進及び技術水準の向上並びに技術開発等の推進を図るため、広く関係者に周知するとともに、多くの研究者や事業者から適切な公募がなされることを、目的として、広報事業を実施した。

(2) 事業の内容

環境省の公募の時期に合わせて別紙のチラシを作成し、(財)廃棄物研究財団会員などに送付するとともに、(財)廃棄物研究財団ホームページにおいても公募要領等を掲載した。

また、業界新聞への掲載依頼及び各学会等ホームページへの掲載依頼を行った。

① 公募案内送付先状況

- ・(財) 廃棄物研究財団会員 145 会員
- ・大学等 79
- ・関連団体 52 団体

(3) 公募に係る業界紙及びホームページへの掲載状況

① 業界紙掲載状況

平成 21 年 2 月 2 日（月）付け循環経済新聞及び平成 21 年 2 月 11 日（水）付け環境新聞に公募に係る記事が掲載された。

② 各学会等ホームページ掲載状況

以下の学会等のホームページに掲載された。

- ・環境経済・政策学会
- ・日本環境衛生施設工業会
- ・廃棄物学会
- ・環境技術学会

平成21年度循環型社会形成推進科学研究費による補助対象事業を公募します。

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

循環型社会形成推進科学研究費補助金

1 補助金の目的

廃棄物の処理等に係る科学技術に関する研究を促進し、廃棄物の安全かつ適正な処理、循環型社会の形成の推進等に関する行政施策の推進及び技術水準の向上並びに技術開発等の推進を図ることを目的としています。

2 対象となる研究、分野及び区分（テーマ）

公 募 対 象	
事業名	循環型社会形成推進研究事業 次世代循環型社会形成推進技術 基盤整備事業
研究	廃棄物処理等に係る科学技術に関する研究で、廃棄物の安全かつ適正な処理、循環型社会形成等の推進、技術水準の向上が期待できる研究を対象 循環型社会の推進及び廃棄物の適正処理に関するもので、本事業により実用化が見込まれ、かつ経済性及び効率性に優れた技術の開発を対象
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物処理に伴う有害化学物質対策研究 ・ 廃棄物適正処理研究 ・ 循環型社会構築技術研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物適正処理技術 ・ 廃棄物リサイクル技術 ・ 循環型社会構築技術
区 分	
重点テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ [特別枠] 使用済み製品等、廃棄物からのレアメタル回収技術に関する研究 ・ 3R推進のための研究 ・ 廃棄物系バイオマス利活用推進のための研究 ・ 循環型社会構築を目指した社会科学的複合研究 ・ アスベスト問題解決をはじめとした安全、安心のための廃棄物管理技術に関する研究 ・ 漂着ごみ問題解決に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物系バイオマス利活用技術開発 ・ アスベスト廃棄物の無害化処理に関する技術開発 ・ 廃炉解体工事の低コスト化のための技術開発 ・ 漂着ごみ問題解決に関する技術開発 ・ 3R・エネルギー回収の高度化技術
一般テーマ	重点テーマに関わらず、公募対象分野ごとの研究 重点テーマに関わらず、公募対象分野ごとの技術開発
若手育成型	若手研究者の育成及びその研究の活性化を目的とした公募区分

3 対象となる各事業の概要

	循環型社会形成推進研究事業 (廃棄物処理対策研究事業)	次世代循環型社会形成推進技術基盤 整備事業 (次世代廃棄物処理技術基盤整備事業)
対象事業	研究室等で実施する基礎又は応用 研究	次世代を担う技術の実証等技術開発
対象者	個人（研究機関に属する研究者）	法人
事業期間	3年以内	1年以内
交付額	年度ごとに1億円以内 対象額の100%以内	1億円以内 対象額の50%以内
平成20年度 採択実績 (平成21年1月19 日現在)	応募件数 176件 採択件数 74件 交付額 約9億3千万円	応募件数 11件 採択件数 6件 交付額 約1億7千万円

4 受付期間

平成21年1月19日（月）～平成21年2月20日（金）

5 応募から交付決定までの流れ

研究計画書提出→ 一次審査→ 2次審査→ 採択通知→ 交付申請書提出→ 交付決定
(書面審査) (ヒアリング) (4月予定)

6 応募の方法

今回の公募より、府省共通研究開発管理システム (e-Rad) による応募となります。
(事前に研究機関及び研究者の登録が必要になります。)

7 制度・業に関するお問い合わせ及び提出書類作成・提出に関する問い合わせ

環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課 研究担当
電話番号 03-3593-8263(代表) 内線6858、6857
〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2 (中央合同庁舎5号館26階)

* 循環型社会形成推進科学研究費のホームページ。
(http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/kagaku/h21/kobo/index.html)

8 府省共通研究開発管理システム (e-Rad) の操作方法に関する問い合わせ

府省共通研究開発管理システム (e-Rad) ヘルプデスク
電話番号 0120-066-877 (9:30~17:30)
土曜日、日曜日及び国民の祝日を除く

3. 第4回アジア太平洋廃棄物専門家会議の開催

(1) 目的

アジア太平洋地域では、急増する廃棄物の管理が、資源循環とともに問題となっており、管理水準の向上が急務となっている。

平成17年10月に東京で開催された第1回アジア太平洋廃棄物専門家会議では、日本、韓国、中国、タイ、フィリピン、インドネシア、カンボジア、マレーシア、ベトナム、インドの10カ国から専門家が参加し、アジア太平洋地域の専門家ネットワーク形成に向けた宣言(Mottainai Declaration)が参加者間で合意された。

平成18年11月に北九州市で開催された第二回アジア太平洋廃棄物専門家会議では、日本、中国、タイ、フィリピン、インドネシア、カンボジア、マレーシア、ベトナム、フィジー、韓国、香港、台湾、インドの13カ国から専門家が参加し、アジア太平洋廃棄物専門家ネットワーク(The Society of Solid Waste Management Experts in Asia and Pacific Islands: SWAPI)の設立が合意された。

平成19年11月に岡山市で開催された第3回アジア太平洋廃棄物専門家会議では、日本、バングラデシュ、カンボジア、中国、中国・香港、フィジー、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、ネパール、フィリピン、台湾、タイ、ベトナム、国連環境計画(UNEP)の16の国・地域、国際機関から専門家が参加し、廃棄物管理等について研究発表が行われた。また、前回(第二回)専門家会議において設立が合意された、SWAPIの具体的な活動を実施するための運営指針が採択された。

上記の検討経緯を受け、廃棄物管理に関するさらなる知識の共有による廃棄物管理水準の向上や国際研究協力推進を図ることを目的とし、平成20年7月16日～18日の日程で、横浜市で第四回アジア太平洋廃棄物専門家会議を開催した。同会議には、日本、バングラデシュ、中国、フィジー、インドネシア、韓国、マレーシア、ネパール、フィリピン、台湾、タイ、ベトナムの12カ国から専門家が参加し、活発な意見交換が行われた。

(2) 開催概要

開催日 平成20年7月16日(水)～18日(金)

開催場所 JICA 横浜「かもめ」会議室 (神奈川県横浜市中区新港 2-3-1)

主催 第4回アジア太平洋廃棄物専門家会議実行委員会(廃棄物学会、横浜市、(財)廃棄物研究財団、(財)地球環境戦略研究機関)

7月16日(水)の専門家会議では、午前から午後にかけてのセッション1、セッション2において、「SWAPIの組織と活動」についての発表と討議が行われた。その後、セッション3において、「廃棄物データ把握、有害廃棄物、廃棄物系バイオマス」についての発表と討議が行われた。

7月17日(木)は、「循環型社会に向けての連携と協力」をテーマに、一般聴講者を交えた公開セミナー形式で会議を開催した。

まず、セッション1「循環型社会構築における連携の重要性」では、開催市である横浜市の発表に続いて、海外事例三点の発表が行われ、引き続き討議が行われた。

次に、セッション2「温暖化対策に向けての廃棄物処理の役割」では、二つの講演に引き続き、討議が行われた。

続いて、セッション3「信頼しうる廃棄物データの把握」では、三つの講演に引き続き、討議が行われた。

最後に、「アジア太平洋地域における廃棄物専門家のネットワーク構築の進捗」をテーマに、パネルディスカッションが行われた。日本国環境省から「循環型社会の構築を目指したアジア太平洋地域の専門家の連携」基調講演が行われ、引き続き6名の専門家による各国の事例紹介が行われた。

7月18日(金)の専門家会議では、第四回アジア太平洋廃棄物専門家会議での議論の総括が行われた。また、会議終了後、テクニカルツアーとして、横浜市の資源循環局金沢工場施設、並びに資源循環局金沢資源選別センターの見学を行った。

(3) 会議資料

専門家会議、公開セミナー等のプログラムは別紙のとおり。

またその他の資料(参加者リスト、議長サマリー、会合文書及びパワーポイントプレゼンテーション、写真を含む)については、別添資料のとおり。

(4) 開催案内

主催者ホームページ及び新聞等における開催案内の掲載、開催案内チラシの配布等により行った。

(5) 参加者数

専門家・オブザーバー(専門家会議): 3日間期間のべ、約125名

一般傍聴者(公開セミナー): 110名

* 参加国: 日本、バングラデシュ、中国、フィジー、インドネシア、韓国、マレーシア、ネパール、フィリピン、台湾、タイ、ベトナムの12カ国

(6) 第4回専門家会議開催の成果

SWAPIの組織と活動について、過去3回のアジア太平洋廃棄物専門家会議内容のレビュー、リソースパーソンへのアンケート、WEBサイト/Yahoo! Groupsの利用、出版物の発行が討議され、また、信頼出来るデータの取得、有害廃棄物、バイオマスをテーマとする各国からの報告、及び今後の研究協力に向けての提案が行われた。

第4回アジア太平洋廃棄物専門家会議で決定された事項は、運営母体として、International Advisory Board が設置されることとなり、中国、インド、タイ、マレーシア、韓国、フィリピン、日本の7ヶ国、計8名が選ばれ、田中 勝 鳥取環境大学教授が議長に選任された。台湾、ネパールをInternational Advisory Board に加えるかどうかは継続審議されることとなった。

第4回アジア太平洋廃棄物専門家会議 プログラム

【2008年7月15日（火）】

内容	時間	構成
		参加者到着

【2008年7月16日（水）】

内容	時間	構成
受付	09:30	
開会挨拶	09:45	山本和夫 廃棄物学会長
専門家会議	09:50	<p>【SWAPI 組織と活動（1）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加者自己紹介 ● 議題の確認 ● 出席者及びリソースパーソンからの活動進捗報告 Enri Damanhuri, Institute of Technology Bandung (インドネシア) Sung-Keun Bae, Changwon National University, Korea Society of Waste Management (韓国) Agamuthu Pariatamby, University of Malaya (マレーシア) Albert Altarejos Magalang (フィリピン) Nguyen Van Hoa, URENCO / Vietnam Urban Environment and Industrial Association (ベトナム) 及び Nguyen Thi Kim Thai, Institute of Environmental Science and Engineering (ベトナム) 酒井伸一 京都大学 (日本) ● 以前の会合や活動のレビュー 渡辺泰介 (独) 国際協力機構 ● SWAPI の役割 討議 ● International Advisory Panel の組織について 松村治夫 廃棄物学会 ● 第五回専門家会合 (韓国) の紹介 Go-Su Yang, Chonbuk National University, Korea Society of Waste Management (韓国)
昼食休憩	12:30	
専門家会議	13:45	<p>【SWAPI 組織と活動（2）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出版 Youcai Zhao, Tongji University (中国)

		<ul style="list-style-type: none"> ● 調査研究活動 討議 ● Yahoo Groups の利用の提案 四阿秀雄 廃棄物学会 討議
コーヒーブレイク	15:15	
専門家会議	15:30	<p>【SWAPI 組織と活動 (2) (続き)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物データ把握 プロポーサルの説明 渡辺泰介 (独) 国際協力機構 討議 ● 有害廃棄物 ケースレポート1 Tariq Bin Yousuf, Dhaka City Corporation (バングラデシュ) ケースレポート2 Shui-Hway Yen, Taiwan Green Productivity Foundation (台湾) プロポーサルの説明 松村治夫 廃棄物学会 討議 ● 廃棄物系バイオマス プロポーサルの説明 副田俊吾 (社) 日本廃棄物コンサルタント協会 討議
総括	17:45	
第一日終了	18:00	

【2008年7月17日（木）】 公開セミナー「循環型社会に向けての連携と協力」（同時通訳付）

内容	時間	構成
登録	09:00	
開会挨拶	09:30	（初日のプログラムのサマリを含む） 田中勝 第4回アジア太平洋廃棄物専門家会議実行委員長、鳥取環境大学
挨拶	09:45	工藤文昭 横浜市
セッション1 「循環型社会構築における連携の重要性」	10:00	「G30 への取組み」 清水伸一 横浜市 海外事例1「循環型社会構築にむけたステークホルダ間の連携の重要性」 Hsiao-Kang Ma, National Taiwan University (台湾) 海外事例2「持続可能な廃棄物管理のための連携：インドの経験」 Kurian Joseph, Anna University (インド) 海外事例3「フィリピンにおけるコミュニティーベースのリサイクルの推進」 Albert Altarejos Magalang (フィリピン)
昼食休憩	12:00	
セッション2 「温暖化対策に向けての廃棄物処理の役割」	13:20	講演1「アジアにおける廃棄物処理から排出される温室効果ガス」 山田正人 (独) 国立環境研究所 講演2「埋立処理の改善による温室効果ガスの削減」 Yong Feng Nie, Tsinghua University (中国)
セッション3 「信頼しうる廃棄物データの把握」	14:20	講演1「信頼できるデータ収集のための廃棄物マトリックスおよび関連する経験値の一般的なコンセプト」 渡辺信久 大阪工業大学 講演2「都市ごみに関するデータ収集における基本的手法の提案」 Widhi Handoko, Water and Sanitation Training Institute (インドネシア) 講演3「都市ごみに関するデータをどのように入手し、解析し、使用するか？」 副田俊吾 (社) 日本廃棄物コンサルタント協会
コーヒーブレイク	15:40	
パネルディスカッション	16:00	基調講演「循環型社会の構築を目指したアジア太平洋地域の専門家の連携」

「アジア太平洋地域における廃棄物専門家のネットワーク構築の進捗」		<p>川上毅 環境省</p> <p>各国事例紹介</p> <p><i>Joje Davetanivalu, Department of Environment (フィジー)</i></p> <p><i>Enri Damanhuri, Institute of Technology Bandung (インドネシア)</i></p> <p><i>Agamuthu Pariatamby, University of Malaya (マレーシア)</i></p> <p><i>Surya Man Shakya, Shikhar Boarding School (ネパール)</i></p> <p><i>Nguyen Van Hoa, URENCO / Vietnam Urban Environment and Industrial Association (VUREIA) (ベトナム)</i></p> <p>酒井伸一 京都大学 (日本)</p>
閉会挨拶	17:40	

【2008年7月18日(金)】

内容	時間	構成
専門家会議	09:30	総括討議
閉会	11:00	
テクニカルツアー	11:15	
第三日終了	16:00	

4. 研究者の海外派遣・国内招聘

(1) 目的

研究者の海外派遣は、研究者を国際会議等に派遣して、派遣者が自ら実施した研究成果を国際会議等で発表するとともに海外の最新情報を収集し、これらの成果を日本国内で公表することにより、循環型社会構築や廃棄物適正処理等に係る研究及び技術開発の推進に資することを目的として実施した。

また、研究者の国内招聘は、外国人研究者を国内の国際会議等に招聘するものであり、国際会議等での研究成果発表などを通じてお互いの国の情報等を共有することにより、国内のみならず国外における 3R イニシアティブや廃棄物適正処理等に係る研究及び技術開発の推進に資することを目的として実施した。

(2) 派遣者・招聘者の応募

関係各所約 150 箇所（廃棄物関連団体、大学及び都道府県等の研究機関、企業等）に海外派遣と国内招聘の募集案内を送付する一方、同内容を当財団のホームページ及び国立環境研究所「環境研究技術ポータルサイト」に掲載した。また、一般への周知を図るため、廃棄物関連の専門紙等を発行している 3 社（㈱日報アイビー、㈱環境新聞社、㈱環境産業新聞社）に募集案内を送付した。

なお、当初募集は 8 月末までとしていたが、8 月末時点において予算上追加が可能であったため、下記の第 1 回審査委員会において海外派遣の追加募集を行うことを決定し、当財団のホームページにて第 4 回まで追加募集を行った。

海外派遣への応募者は、当初募集において 6 名、第 4 回募集 1 名（後に応募取消し）の計 7 名であった（表 4-2）。

また、国内招聘への応募者は当初募集 8 名（後に 1 名辞退）、第 2 回募集 2 名、第 3 回募集 4 名の計 14 名（後に 1 名辞退）であった（表 4-3）。

(3) 派遣者・招聘者の決定

海外派遣者及び国内招聘者の決定にあたっては、審査委員会（「研究者の派遣及び招聘に係る審査委員会」）を設置し、委員会での審査によって決定することとした。

審査委員会の委員は、以下に示す 3 名の方をお願いした。

表 4-1 審査委員会委員

	所 属 、 役 職	委員氏名
委員長	鳥取環境大学 教授	田中 勝
	(財)福岡県環境保全公社リサイクル総合研究センター センター長	花嶋 正孝
	東京大学環境安全研究センター センター長	山本 和夫

(敬称略)

表 4-2 海外派遣への応募者及び採択結果

No.	氏名	所属	職名	年齢	備考
1	高橋史武	九州大学大学院 工学研究院 環境都市部門	特任助教	31	第1回応募
2	朝倉宏	(独)国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター 資源化処理処分技術研究室	流動研究員	31	第1回応募
3	福村絹海	新潟大学大学院 自然科学研究科 環境共生科学専攻	学生	29	第1回応募
4	出口晋吾	(財)京都高度技術研究所 バイオサイクルプロジェクト	主任研究員	31	第1回応募
5	藤森崇	京都大学工学研究科	学生	27	第1回応募
6	谷口崇至	東北大学大学院工学研究科 土木工学専攻	学生	29	第1回応募
7	澤村啓美	大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻	学生	27	第4回応募

- ※ 番号5については、審査委員会にて条件付き採択後、発表が認められなかったため助成取消。
 ※ 番号7については、開催国（タイ）の情勢不安により開催が延期となり、助成対象期間を超過したため、審査委員会（書類審査）開催前に応募者が申請を取消した。

表 4-3 国内招聘への応募者及び採択結果

No.	氏名	国名	所属	職名	備考
1	Stegmann Rainer	ドイツ	Technische Universität Hamburg-Harburg	Professor	第1回応募 助成既決後、都合により来日不可
2	Damanhuri Enri	インドネシア	Institut Teknologi Bandung (ITB)	Professor	第1回応募
3	Daiz Luis F	アメリカ	CalRecovery, Inc.	President	第1回応募
4	Prayogo Tri Budi	インドネシア	Engineering Faculty, Brawijaya University	Lecturer	第1回応募
5	Tao Xiaoping	中国	Shanghai Environment Group Company Limited	President	第1回応募
6	Gu Min-sook	韓国	Busan City Waste Management Department General Affair Unit		第1回応募
7	Luong Thi Mai Huong	ベトナム	Hanoi Urban Environment Company (URENCO)	Vice manager	第1回応募
8	Premuruadee Champooonod	タイ	Phitsanulok Municipality	Mayor	第1回応募
9	Cossu Raffaello	イタリア	University of Padova	Professor	第2回応募
10	Rettenberger Gerhard	ドイツ	Technical University of applied Science in Trier	Professor	第2回応募 Stegmann氏から変更
11	Hyun Jaehyuk	韓国	Chungnam National University	Professor	第3回応募
12	Lee Don-hong	韓国	The University of Seoul	Professor	第3回応募
13	Ngo Chi Kim	ベトナム	Institute of Natural Products Chemistry	Head of deparment	第3回応募
14	LONG Jisheng	中国	Shanghai JEC Environmental Consultant CO., Ltd.	President	第3回応募

(敬称略)

- ※ 国名は、所属機関のそれを示す。また、所属は申請時のものである。
 ※ 番号1は、助成採択後、都合により来日が不可となり番号10の候補者に変更された。
 ※ 番号4は、審査の結果、Host Researcher（国際会議主催者）の推薦とは認められず、不採択となった。

当初募集における応募者の審査は、9月14日(金)に開催した第1回審査委員会において行った。審査の結果、海外派遣応募者6名のうち2名については、口頭発表決定次第という条件付き採択となった(うち1名は発表が許可されず、助成取消し)。また、国内招聘については、4名のうち1名は Host Researcher (国際会議主催者) の推薦とは認められず、不採択とし、3名採択することとなった。

追加募集における応募者の審査は、第1回審査委員会において応募の都度行うこととしたため、審査委員会は開催せず、書類審査による表決とした。海外派遣応募者については、上述のとおり、国際会議開催国の情勢不安から開催が延期され、平成20年度中に派遣者が帰国することが不可能となったため、応募者が書類審査開始前に申請を取消した。追加募集の国内招聘者については、いずれも招聘することに決定した。

(4) 派遣した国際会議等

海外派遣を決定した5名の派遣一覧を表4-4に示す。

表4-4 研究者の国際会議等派遣一覧

国際会議等名称	開催場所	開催期間	派遣者
2nd International Conference on Accelerated Carbonation for Environmental and Materials Engineering	イタリア、ローマ	2008/10/1～10/3	高橋史武
The 5th Intercontinental Landfill Research Symposium	アメリカ、コロラド州デンバー	2008/9/10～9/12	朝倉宏
DIOXIN 2008 28th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants	イギリス、バーミンガム	2008/8/17～8/22	福村絹海
5th International Conference on "Combustion, Incineration/Pyrolysis and Emission Control (i-CIPEC 2008)"	タイ、チェンマイ	2008/12/16～12/19	出口晋吾
2nd IWA-ASPIRE Conference and Exhibition (Water and Sanitation in the Asia-Pacific Region: Opportunities, Challenges and Technology),2007	オーストラリア、パース	2008/11/1～11/7	谷口崇至

(敬称略)

(5) 招聘した国際会議等

国内招聘を決定した 12 名の招聘一覧を表 4-5 に示す。

表 4-5 研究者の国際会議等招聘一覧

国際会議等名称	開催場所	開催期間	招聘者
APLAS 2008	札幌市	2008/10/21～10/24	Damanhuri Enri/Daiz Luis F/ Cossu Raffaello/ Rettenberger Gerhard/ Hyun Jaehyuk/LEE DONG-HOON NGO CHI KIM/LONG Jisheng 計 8名
3Rs East Asia Local Government Network Conference	川崎市	200/10/27～10/31	Tao Xiaoping/Gu Min-sook/ Luong Thi Mai Huong/Piengpan 計 4名

(6) 派遣の成果

海外派遣の成果として、派遣者に報告書提出を求めた。(資料参照)